

[普及事項]

新技術名：西洋ナシ輪紋病に対する最終散布時期と防除効果（平成5～6年）

研究機関名 果樹試験場天王分場
担 当 者 深谷雅子

[要約]

西洋ナシ輪紋病に対する防除は、9月上～中旬に最終散布を行なうことにより果実感染が抑制され、高い防除効果が認められた。

[ねらい]

西洋ナシ輪紋病防除における最終散布時期を明らかにする。

[技術の内容・特徴]

1) 材料及び方法

(1)平成5～6年に、果樹試験場天王分場内圃場において、「マルゲリット・マリーラ」および「ラ・フランス」を供試して輪紋病に対する防除の最終散布時期を検討した。

キャプタン・ベノミル水和剤（キャプレート水和剤）500倍およびキャプタン・有機銅水和剤（フジオキシラン水和剤）600倍を6月中旬から8月上～中旬にかけて約10日間隔で降雨前または降雨後に散布し、その後9月上～中旬の散布による防除効果を検討した。調査は収穫以降、追熟中に行い、果実発病の有無を調べた。

2) 結果

(1)輪紋病に対する防除は6月中旬から8月上旬まで約10日間隔で薬剤散布を行なった後、「マルゲリット・マリーラ」では9月上旬に、また「ラ・フランス」では9月上～中旬に1回行くと、収穫以降、追熟中の果実発病が少なく高い効果が認められた。

(2)キャプタン・ベノミル水和剤500倍およびキャプタン・有機銅水和剤600倍は本病の防除薬剤として有効であった。

(3)柄胞子の飛散期間はその年の気象条件によって多少のずれがあるものの、概ね6月中旬から9月上～中旬であった。〔平成7年度「実用化できる試験研究成果」参照〕

[普及対象範囲]

県内の西洋ナシ栽培地域

[普及上の留意事項]

- ・ 散布は降雨前か降雨直後に行う。
- ・ キャプタン・ベノミル水和剤およびキャプタン・有機銅水和剤は収穫7日前までの使用である。
- ・ リンゴと混植されている西洋ナシの輪紋病を、リンゴの病害と同時防除するためには、止め散布の時期及び薬剤の選択に注意する。

[具体的なデータ等]

表1 西洋ナシ輪紋病に対する散布時期と防除効果（H5年）

試験区	散布月日と薬剤									調査果数	発病果率
	6/18	6/28	7/8	7/13	7/19	7/30	8/13	8/24	9/16		
1区	C	F	C	C	C	C	F	F	C	136	4.5%
2区	C	F	C	C	C	C	F	F	F	150	4.2
3区	C	F	C	C	C	C	F	F	—	85	20.0
4区	—	—	—	—	—	—	—	—	—	45	53.8

注) C:キャプレート水和剤500倍、F:フジオキシラン水和剤600倍、—:無散布
供試品種:ラ・フランス

表2 試験区および散布方法（H6年）

試験区	散布月日と薬剤								
	6/10	6/20	6/30	7/6	7/13	8/4	9/2	9/9	
1区	F	F	F	C	C	C	C	—	
2区	F	F	F	C	C	C	—	C	
3区	F	F	F	C	C	C	F	—	
4区	F	F	F	C	C	C	—	F	
5区	F	F	F	C	C	C	—	—	

注) C:キャプレート水和剤500倍、F:フジオキシラン水和剤600倍
—:無散布

表3 西洋ナシ輪紋病に対する防除効果（H6年）

試験区	マルゲリット・マリーラ		ラ・フランス	
	調査果数	発病果率	調査果数	発病果率
1区	54	0%	51	0%
2区	60	20.0	54	3.7
3区	51	2.0	50	8.0
4区	52	3.8	50	12.0
5区	59	50.8	50	14.0

表4 輪紋病菌の柄胞子飛散消長

調査月/旬 年次	6月			7月			8月			9月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
H5年	0	18	36	36	54	72	0	594	72	0	0	0
H6年	0	30	27	54	29	81	48	0	0	6	0	0

注) 表中の数字は柄胞子数 ($\times 10^2 / \text{m}^2$)

[発表文献等]

- ・東北地域重要新技術研究成果No.21
消費ニーズ対応のセイヨウナシの高級化技術確立
- ・果樹試験場業務報告（平成5、6年度）